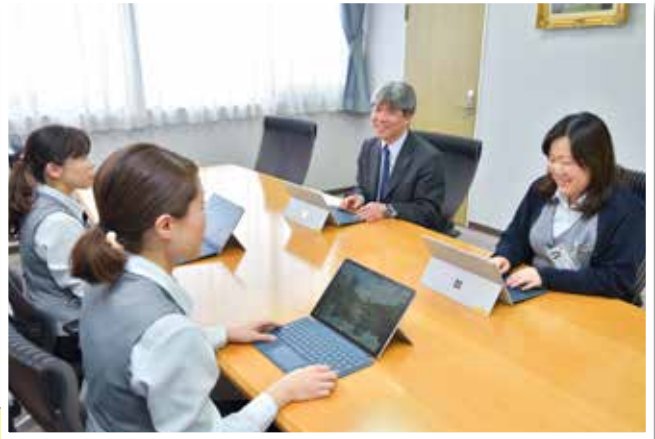


タブレット型のパソコンを導入し、ペーパーレス化を進めることで資料を印刷する負担が軽減された

柔軟な発想で 取り組みを推進 時差出勤を全部署で導入



一般財団法人 石川県予防医学協会

役割分担を強化して 労働時間を平準化

健康診断や人間ドック等を通じて県民の健康づくりをサポートする石川県予防医学協会。健康をテーマとした事業内容だけに「健康経営」の観点から、職員の健康管理を活力向上や生産性向上のための経営的な投資と捉え、働き方改革を推進している。

長時間労働が職員の健康を損なうと考え、2017年度から本格化させた残業削減の取り組みもその一つだ。検診車による顧客先への出張健診では、事後処理を協会に戻ってから行うため帰宅時間が遅くなることがある。そこで、事後処理の業務内容を精査し、出張健診に向く医療専門職と協会内の事務職の役割分担を強化して、労働時間を平準化した。また、クラウド型のグループウェアを採用し、「報告・連絡・相談」の徹底と情報共有で仕事の効率化を図ったほか、スマートフォンでも必要な情報を外出先で確認できるなど、時間の有効活用にもつなげた。

さらに、定時の帰宅を促す試みとして、終業時間 10 分前の午後 5 時に映画「ロッキー」のテーマ曲を館内に流すようにした。この時点で残業が必要な職員は上司に申告する。さらに、午後 7 時にはドボルザー

クの「家路」を流す。これらの取り組みの結果、一部の部署で 2018 年 1 月の残業時間が前年同期と比べ平均 6.1 時間減ったという。金地雅之事務局長は「帰宅を促す音楽が早帰りの意識付けにつながっているのは確か。職員一人ひとりが 1 日のスケジュールを考えるようになった」と手応えを感じている。

会議の資料を ペーパーレス化

総務部では外来の受診者に対応するため、当番制で 1 時間早く時間外出勤をしていた。そこで、2018 年 1 月から、時間外出勤した人は 1 時間早く帰宅できるようにした。総務部の安達成子リーダーは「当初、周囲を気遣って帰りにくくなるのではないかと思ったが、当番の職員が早く帰宅できるよう、みんなが協力して効率的に仕事をしている」と話し、コミュニケーションも円滑になったという。金地事務局長は、「時差出勤は、元々は早朝の健診に対応する職員のみという固定観念があったが、講座に参加しさまざまな企業と話すことで、柔軟に考えることができた」と話し、4 月からは全部署で時差出勤を導入する予定だ。

さらに、業務の効率化にも余念が

ない。例えば、着々と推進しているのがペーパーレス化だ。会議室に Wi-Fi の環境を整え、タブレット型のパソコン 20 台を導入。これにより、会議資料を電子データで共有することが可能となり、資料を印刷する職員の負担が軽減された。

同協会がこうした働き方改革を進めるのは、各職員のスキルアップの時間を確保したいのはもちろん、仕事のレベルをもう一段階、引き上げたいからだ。例えば、営業担当は「健康経営」を顧客に理解してもらうためのコミュニケーションにより多くの時間を活用するなど、職員がよりやりがいのある、質の高い仕事ができる環境を整えていく考えだ。

同協会では、顧客と職員の満足と同時に実現するため、「改善に終わりはない」を合い言葉に、これからも常識にとらわれない改革を推進していく。



メンタルとフィジカルが健康であることが生産性を高めると考え、改革を進める金地事務局長(右)と安達リーダー

DATA

■所在地/金沢市神野町東 115 ■代表者/松崎 充意 ■設立/1952 年 ■従業員数/287 名 (男:82 名/女:205 名)
■事業内容/健康診断 (施設健診・出張健診)、人間ドック、健康づくり支援等